

公表	事業所における自己評価総括表
----	----------------

○事業所名	児童発達支援工ミエル			
○保護者評価実施期間	2025年3月1日 ～ 2025年3月25日			
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	23	(回答者数)	18
○従業者評価実施期間	2025年3月1日 ～ 2025年3月15日			
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	7	(回答者数)	7
○事業者向け自己評価表作成日	2025年3月20日			

○ 分析結果

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	広い活動スペースと多様な遊具を備え、子どもがのびのびと活動できる環境が整っている。	活動が固定化しないよう、日替わりで課題やプログラムを変化させ、子どもの興味を引き出している。	広いスペースと遊具の活用方法をさらに工夫し、運動・感覚遊びのバリエーションを増やすことで、より多くの成功体験を提供する。
2	保護者への説明や面談を丁寧に行い、信頼関係を築けている。評価項目「保護者への説明」では100%の肯定評価。	入所前・入所時の個別説明、送迎時の声かけ、活動報告写真の提供など、日常的に情報共有を行っている。	活動や成長の経過を定期的にまとめたレポートを作成し、保護者が支援の進捗をより明確に把握できる仕組みを導入する。
3	発語がない児童への意思のくみ取りや、発達段階に応じた段階的な支援が評価されている。	日々の活動で子どもの反応や表情を観察し、興味・関心を把握した上で支援内容を調整している。	個別支援計画と日々の活動をより密接に連動させ、保護者が「計画通り成長している」と実感できる場面を増やす。

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	「職員の配置数」や「非常時等の対応」など、一部の項目で「どちらともいえない」という回答が見られ、満足度がやや低い傾向がある。	実際には必要な職員数や対応手順は確保しているが、その仕組みや基準について、保護者に十分に説明されていないため、安心感や理解が十分に得られていない可能性がある。	職員体制や非常時の対応手順を、図や事例を用いてわかりやすく説明する資料や説明会を実施し、保護者の理解と信頼を高める。
2	活動スペースや遊具は充実しているが、一部から「より使いやすい配置や環境づくりが必要」との意見がある。	人気の遊具やエリアに利用が集中し、活動によっては混雑や待ち時間が発生することがある。	遊具の配置換えや活動スケジュールの調整、スペースの分割活用などを行い、すべての児童が安心して活動できる環境を整備する。
3	一部保護者から、日々の活動内容はわかるものの、長期的な成長や計画達成度が把握しづらいという声がある。	日常的な報告は口頭や写真で行っているが、個別支援計画に沿った進捗状況や達成度の共有は、定期面談や限られた機会にとどまっている。	個別支援計画の目標に対して、日々の活動や成長を可視化した記録を定期的に提供し、保護者が支援の意図と成果をより明確に把握できるようにする。